

審査員特別賞

頑張ろう！ジンウと共に

つくば市立手代木中学校 3年

今熊 樹

「私の友達いつきへ こんにちは。私の友達いつき お前がこの手紙を見ると お前は離れるだろう でもこれをはじめにお互いのことを分かって行って、後を約束しよう。」

ジンウから別れ際にもらった手紙には、こう書いてあった。慣れない日本語の文字と言葉で、一生懸命書いてくれたことが伝わってきた。

僕は昨年、つくば市国際交流協会の日韓交流事業で、つくば市の姉妹都市であるテジョン市に四日間滞在した。韓国の伝統的な服を着たり、韓国料理をつくったりして、市内の中学生と楽しく交流した。その中の一人であるジンウの家では僕はホームステイをした。ジンウと彼の家族は温かく僕を迎え入れてくれ、去るときにはたくさんのお土産と冒頭の手紙をくれた。韓国で過ごした時間はとても楽しく、今でも忘れられない。

今年の夏は僕たちつくば市の中学生が、ジンウたちテジョン市の中学生を迎え入れる番だった。僕は日本に帰ってからも、定期的にジンウとメールでやり取りしている。何が好きなのか、日本で何をしたいかなど、たくさんのことを尋ねた。家族でもホストファミリーデーでジンウをどこへ連れていくか、お土産は何にするかなどを話し合い、ジンウが来るのを心待ちにしていた。

ところが夏になると日韓関係が悪化した。新聞やテレビでは過去最悪とも報じられ、他の自治体の日韓交流事業が中止になったというニュースもあった。だが僕たちの日韓交流事業では夏休みのはじめに参加者が集まり、内容やホストファミリーの心構えの確認、さらにウエルカムボードの作成を行ったので、僕と家族はジンウが来ることを信じて準備を続けた。

しかし集まった数日後、ジンウからメールが届いた。そこには日本に行きたかったが行けなくなったと書いてあった。その後つくば市国際交流協会から、韓国側の中学生と保護者からは強い参加の意向があったものの、テジョン市の決定に従い、交流事業が延期になったという連絡がきた。僕も家族もとても残念がった。だがメールでジンウは連絡をとり続けようと言ってくれた。僕も家族もジンウを迎えるのを諦めていない。ジンウが来るのがいつになるのかわからないが、最高のおもてなしができるように準備を続けるつもりだ。

現在世界には、紛争、地球温暖化など、様々な問題がある。これらの問題を解決して、より良い世界の未来を目指すためには、国を越えて僕たちが協力する必要がある。日韓関係が悪化している今だからこそ、僕たち市民どうしの交流が大切なのではないのだろうか。

ジンウからの手紙には、最後に「私も日本語勉強をするよ。頑張ろう！」とあった。僕も英語や韓国語の勉強を頑張る、これからもメールで交流を続けたい。そして必ずまたジンウと実際に会って、色々な話をしたい。